



帯広西ロータリークラブ 第2420回例会 2023.2.16

会報



■RI第2500地区スローガン■

ともに紡ごう！
ロータリーの未来へ

■クラブ・テーマ■

新たな半世紀に向かって…RESTART

会長報告

奥 敏則 会長

皆さんこんにちは。会長報告をします。「三寒四温」という言葉がありますけれども、帯広北海道では少しずつ暖くなるこれからの時期に使われる言葉ですが、最近は朝早くからの仕事が多いものですから、マイナス20度くらいの中で毎日仕事をしていると、春はまだまだ遠いと感じてしまいます。こんな折に九州で仕事のお世話になっている方から、「是非、帯広の冬の体験をしたい。ダイヤモンドダスト、サンピラー、ジュエリーアイスなどをみたい」という事で、日曜日の朝早くに豊頃の大津にジュエリーアイスを見に行ってきました。残念ながらマイナス5度くらいでしたので、気温が高かったためにダイヤモンドダスト、サンピラーは全く見る事が出来ませんでした。ジュエリーアイスは少しばかりでしたが、見る事は出来ました。観光客も想像していたよりは多く、早朝にも関わらず30人くらいはいたでしょうか。外国の方もいらっしゃったようですし、日中であれば観光バスも乗り付けているようです。観光スポットとして知られている事に少し驚きました。北見工大が観測機を置いて、ジュエリーアイス出現予想もネットで公開しているようですので、是非、皆さんも見に行かれてはどうでしょうか。さて、話は変わりますが、2月6日に起こりましたトルコ・シリア大地震の件です。マグニチュード7.8、マグニチュード7.5



の2度にわたる強い地震により、すでに犠牲者は4万人以上、2600万人にも及ぶ被災者が出ているとWHOでは推計をしております。震源が浅い直下型地震であることに加え、建築物の耐震性の低さ、更に被害を大きくしたのは、未明の事であったと言う事です。被害の状況は地震そのものの大きさだけではなく、様々な要因で変わる事を改めて知らされました。また、救出には「魔の72時間の壁」と言うものがあるようですけれども、今尚、200時間を過ぎて、助けられている方も出てきているようです。もう皆様方は知っているかもしれませんが、トルコは1890年のエルトゥールル号の遭難事件以来、親日の国として知られています。オスマン帝国海軍のエルトゥールル号は、紀伊半島沖で、台風に煽られて、岩礁に衝突し沈没し、600余名以上が投げ出され、わずか69名だけが、助かったと言う事件でした。日本での献身的な援助を受けて、日本の船でトルコまで送り届け、亡くなった方には、日本で集めた義援金を当てたりとしたため、当時のトルコは、大歓迎で日本の船を迎えてくれたという事です。イランイラク戦争の時には日本の民間機は安全上飛ばず、自衛隊機も憲法上の理由で派遣できなかった事で、テヘラン空港に残された日本人をエルトゥールル号の借りを返しただけの事、という事で、トルコ航空が自国民より優先して日本人を救出してくれました。この事は河西さんの系列会社におられました元会員の村田さんの会員卓話で



会長 奥 敏則 副会長 高田 晃一 会場監督理事 長平 圭太 発行：広報委員会 (副)板倉 利幸
幹事 森 秀明 副会長 河西 智子 プログラム委員理事 菊池 俊博 委員長 河合 敏 (副)所 輝泉



例会日/木曜日 12時30分～13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル東館3階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

知りました。ロータリーとしてもプロジェクトのパートナーであるシェルターボックスを現地に派遣し、被災地のニーズや対応方法を探っている他、財団の資金のロータリー災害義援金を使って、支援を始めているようです。これから地区の方からも義援金等の要請があるかもしれませんが、是非とも皆様のご協力をお願いしたいと思います。最後になりますが、今日は米山記念奨学委員会の担当例会です。メールで送られてきたハイライト米山によれば、今年度の米山によせられた寄付金は、前年度同期に比べて、5.8%も増えているのだそうです。川田委員長の就任の挨拶にもあったように、一人なんとか1万円の寄付をお願いしたいという事ですので、是非ともこちらの方の協力をお願いしたいと思います。

会務報告

森 房明 幹事

①第6分区IM (Intercity Meeting)開催のご案内

日 時 3月18日(土)
午後0時30分 登録受付
場 所 ホテル日航ノースランド帯広
13:00 開会式
13:30 ~ 16:50
講演・特別講演・閉会式
17:25 懇親会

※尚、帯広RC、3月15日(水)の繰下げ例会と致します。

帯広西RC、3月16日(木)の繰下げ例会と致します。

帯広北RC、3月17日(金)の繰下げ例会と致します。

帯広南RC、3月20日(月)の繰上げ例会と致します。

帯広東RC、3月21日(火)の繰上げ例会と致します。

②帯広RC、夜間例会開催のご案内

日 時 2月22日(水)午後6時30分
場 所 ホテル日航ノースランド帯広

③帯広西RC、創立記念夜間例会開催のご案内

日 時 2月24日(金)午後6時30分
場 所 北海道ホテル

※アルコールがでますので、飲まれる方は運転をお控えください。

※尚、2月23日(木)の繰下げ例会と致します。

④帯広北RC、創立記念夜間例会開催のご案内

日 時 2月24日(金)午後6時30分
場 所 ホテル日航ノースランド帯広

ニコニコ献金

松田 貴史 親睦活動委員

太田 豊 国際奉仕委員長

本日担当例会です。金澤副委員長、頑張るはずです。宜しくお願い致します。(2月2日分)



川田 章博 米山記念奨学委員長

本日は米山記念奨学委員会の担当例会です。宜しくお願いします。

松田 貴史 親睦活動委員

ニコニコ発表します。

ニコニコ 献金	2月16日	2,000円
	累計	457,000円 (2月16日現在)

◆プログラム

川田 章博 米山記念奨学委員長



皆さん、こんばんは。ここへ来るとちょっと勇気が出ます。皆、本当にいい顔しているなと思います。久しぶりにお会いする事をお許しいただきたいと思います。今日は米山記念奨学委員会の担当例会でございます。この30分、私が話そうかと思っていたのですが、パワーポイントが使えない。デジタルとは縁遠い人間ですから、副委員長に任せたいと思います。

今日は、若い方は知らないと思いますが、この米山の名前を冠した米山梅吉さんという日本のロータリーのファウンダーの一員の方がいらっしゃいます。その米山梅吉さんに関して、上野副委員長から、お話をしてもらおうと思います。宜しくお願い致します。

「日本のロータリーの創始者『米山梅吉』を知ろう」

上野 庸介 副委員長



ロータリーに入会させて頂いて3年が経とうとしているのですが、ロータリーに入らないと聞かない言葉が結構あります。「デグジネートであったり、ノミニーだったり。その中の一つが米山という言葉です。人の名前だろうという事は分かりますし、だんだんこの人がロータリーを創ったのだなと言う事が分かる訳ですが、そもそも米山梅吉さんと言う方がどの様な方なのか知りたと思いました。ただ、諸先輩の皆様にとっては、聞いたことある話だと思いますが、僕よりも後に入会した方が結構たくさんいらっしゃいますので、今日はそういった方々の為にパワーポイントを創ってきました。

米山梅吉さんは、明治元年東京にて生まれます。お父さんは、和田竹造さん、お母さんは、うたさんです。つまり米山さんは和田家に生まれています。4歳の時にお父さんが亡くなりまして、お母さんの故郷である三島に移住します。東京から来た幼いこの少年は大変成績優秀で、神童と呼ばれるくらい地域では有名な子供だったそうです。出来のよい少年に目をつけた、隣の部落の名家がありました。養子にしたいという話があって、その養子にしたかった家が米山家です。米山家と言うのは何年も続いた歴史的な名家であって、奥さんと戸籍上ははるさんと言うのですが、一人娘の女の子がいたそうです。この、はるさんと言うのは、後に米山梅吉さんの奥さんになりますが、随分先の話になります。米山家の養子にはなっておりませんが、米山家に住みながら、沼津中学に入学し、一生懸命勉強していました。そこで初めて師と言う人に出会います。江原素六という人で、その人は東洋英和だとか麻布を創った方ですけども、国会議員にもなっています。とにかく勉強したくてたまらなかつた少年は、もっと深い勉強をするために明治16年に家出をします。この家出というのは米山家には無断で行いました。何不自由ない暮らしだったのですが、黙って東京に行きました。東京でお兄さんが教鞭をとっていたので、そのお兄さんをあてにして、当時、横浜から新橋までの汽車しかなかったので、横浜まで3日間歩いて、

汽車に乗って東京に行ったそうです。東京では、ジャーナリストの土居光華の書生になりながら、学校に通う事になります。その学校は銀座江南学校と言って、そこで生涯の恩人となる友人に会います。その人が藤田四郎という人です。この人が何故恩人になるのかと言うのは後々分かります。藤田四郎の妻は、井上馨の娘というのがポイントです。勉強をずっと続け、採用試験にも合格し、三島から母を呼び寄せて一緒にくらしながら、語学を中心に学んでいたわけですが、充実した毎日でした。しかし、米山家の娘であるはるさんと東京で再開します。ここで初めて米山家に詫言をいれて、正式に米山家の養子となり、米山梅吉となりました。米山家に戻って不自由ない暮らしをすと思いきや、すぐに渡米します。期間は約8年です。ここでも第二の師ともいえる後に青山学院第2代院長になる本多庸一と出会います。帰国後、勝海舟に師事をする事になります。そして本を出しました。『提督彼理』というペリー提督に関する本を出しまして、勝海舟が題字を書いて、藤田四郎が序文を書きました。明治29年に米山家の娘はると結婚し、仕事に就かなければならないという事で、日本鉄道会社に就職をしますが、1年で即転職します。この転職の理由は、「鉄道は理系でなければ通用しない。文系の自分がこの会社でやっていける自信がない」と思ったからです。そして友人に新しい職場を紹介してもらいます。新しい職場は三井銀行です。先ほど、生涯の恩人と言った藤田四郎という人がいましたが、この人が経済人であり政治家でもあった井上馨の娘と結婚していたつてを使って、三井銀行に就職をする事になりました。三井銀行時代と言うのは、入社してからの月報は40円という事です。今でいうと80万円くらいです。34歳の時から支店長になり、大津支店、東京深川支店、横浜支店、大阪支店などを歴任し、41歳の時に役員になります。役員になって、別邸敷地3000坪取得とありますが、これが今の米山記念館の位置になります。仕事もプライベートも順調に過ごしていた50歳のある日、運命的な出会いがアメリカでありました。それがダラスのロータリーの会員であった福島喜

三次さんにロータリーの存在を教えてくださいました。因みにロータリーと言うのは、最初は会社の会社やお店を順廻りしていた事からロータリークラブという名称になりました。日本に帰ってきて、東京ロータリークラブが大正9年に誕生します。その時の会長が米山梅吉さん、幹事が福島喜三次さんです。その後ロータリークラブというのは大阪・神戸・名古屋・ハルピン・大連などにも広がっていきました。帯広は1935年に出来ました。しかし、戦争が近づいてくるにあたって、日本のロータリー活動と言うのは軍部から目をつけられました。ロータリーは諸外国と仲良くしようというテーマがありましたので、脱退する、解散するというのを命じられるようになります。軍当局に呼び出されて「大日本帝国への反逆である」とまで言われました。帯広は1940年9月5日に解散を決定しています。東京ロータリークラブの最後の挨拶で「奉仕の理想はあくまでも堅持したい」と言う米山さんの言葉がありました。その後、ロータリークラブは名称を変更して活動を続けていく事になります。ただ太平洋戦争が激しくなってきましたから、奉仕活動は主に傷を負った兵士や留守家族の慰問だとか、孤児支援に注がれたと言われています。バースデーケーキの習慣もくずもちが変わっていきました。例えば、「東京水曜会」

などクラブの名称を変更して細々と活動は続いていきました。太平洋戦争が終結した翌年、米山梅吉さんは亡くなってしまいます。東京水曜会が解散し、東京ロータリークラブが再結成された時には既にいらっしゃいません。ここで、新しいロータリークラブが米山梅吉さんの功績を讃えて創ったのが、東京ロータリークラブ独自の事業として「米山記念奨学基金」と言うものが創られ、地区、全国へと広がっていき現在に至ります。奨学生の第1号が、ソムチャードさんというタイの人だったのですが、もう一人、国内に既に留学していた方も奨学金を渡して、初めは2名でスタートしました。このように始まった米山記念奨学会ですが、今、米山梅吉記念館という所に梅吉さんの生涯が掲げられています。因みに、この記念館は歴代ガバナーの名前が継続して刻まれているという事です。数年後、小谷さんの名前もここに刻まれるという事になります。

私の印象としては人との出会いに恵まれた方で、その出会いを形にした人だなと思います。今回、米山記念奨学委員会の副委員長となって、初めて米山梅吉さんという方を調べてわかりましたが、人の出会いを大切にしていたという事です。今回の米山梅吉さんのご紹介が皆さんにとって奨学事業への理解へとつながればと思います。

